総務大臣賞

鳥取県大山町（だいせんちょう）

地域自主組織　まちづくり大山（だいせん）

大山の恵みを受け、住民が助けあい支え愛ながら対話を基調に持続可能な地域づくり

毎年、拠点の玄関に中心メンバーによって門松を飾ります

審査講評

評価のポイント

- 国保診療所を家庭医療教育ステーションとして医大生の教育の場に変容させる地域力、「対話」から考え行動している。
- 傾聴と民主的な運営、自主的に関わる姿勢、自ら考える医療関係者との対話が課題を可能性に変化させ、子どもたちと未来の医師を一緒に育成している。

審査委員のコメント　大山の恵みを受け、住民が助けあい、支えあう対話を基調とした地域づくりが医学生と子どもを育てる

まず知る。まず聴く。そして対話し自分事にする。そこから組み立てる姿勢、やるべきことを考える思考に感銘を受けました。

対話することで、相手を思いやる、協力し合う。困っていることを知る。助けられることを知る。地域内とのつながりと、足りないところを外部の力を借りて、自主的に関わる地域住民が、子育て環境や地域医療の地域課題を可能性に変容させている姿が素晴らしい。

取組の概要

（1）子どもの居場所「のびのび」の取組

長期休業中（春・夏・冬）の小学生が、自主的な学びや遊び、大人等との交流ができるよう安心・安全な居場所を作ることで、子ども達の地域での育ちと愛着を育み、運営を支える住民ボランティアの体制構築による子育て環境の向上を行っている。

（2）過疎地域の医療について住民自ら考える「地域医療を考える会」の取組

大山地区の地域医療について、この地域に所在する診療所の医師や鳥取大学医学部の先生と学生、地域住民等みんなで対話を行う場を作り、地域医療の継続と理想の実現について相互の関係性を築きながら、安心して住み続けることができる地域づくりに取り組んでいる。

鳥大医学部学生と一緒に下校する、「のびのび」参加児童

長期休暇中、拠点のロビーで仲良く過ごす大山小の児童たちと見守りボランティア

「地域医療を考える会」でワークショップの様子
みんなの意見に耳を傾けます

各集落を訪問し、認知症についてのビデオを観た後ワークショップを実施

取組のKEY PLAYER

杉谷 伸一さん［事務局長］

陶山 成昭さん［会長］

遠藤 雅士さん［副会長］

対話と多様な組織・機関との連携できることから始め、 無理しない

「まちづくり大山」は設立10周年を迎えました。住民自らこの地で暮らし続けるためにみんなで話し合いながら、できることから取り組みを進めました。この間、地域唯一の医療機関の存続問題や将来を担うであろう子どもたちが大山の地で育ったことを誇りに思えることを願って取り組んでいます。取り組みを進めるためのノウハウが乏しい我々にとって、大学や行政など多様な機関との連携は重要であり、関係性づくりには苦労しました。おかげさまで、伴走支援をしていただける関係性もでき、やっと自走ができる状況になってきました。

「のびのび」に参加する子どもたちの保護者、「地域医療を考える会」で一緒に課題について考えていただく高齢者との関係づくりもでき、みんなで、持続可能な地域づくりに取り組んで行きたいと考えています。

審査による現地調査でのヒアリング対象者

杉谷 伸一さん［事務局長］／陶山 成昭さん［会長］／遠藤 雅士さん［副会長］

鳥取県大山町（だいせんちょう）

団体名……地域自主組織　まちづくり大山
所在地……〒689-3314 鳥取県西伯郡大山町今在家611
連絡先……TEL：0859-57-4672
E-mail：s-sugitani@town.daisen.lg.jp